

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 28 日現在

機関番号：82512

研究種目：基盤研究 C

研究期間：2009 ～ 2012

課題番号：21530289

研究課題名（和文）サブサハラ・アフリカにおける企業の学習行動：マダガスカルの衣料産業

研究課題名（英文）Learning through Foreign Direct Investment in Sub-Saharan Africa: The Case of the Garment Industry in Madagascar

研究代表者

福西 隆弘 (Takahiro Fukunishi)

日本貿易振興機構アジア経済研究所 地域研究センター 研究員

研究者番号：80450526

研究成果の概要（和文）：

本研究では、アフリカにおける製造業の発展可能性をマダガスカルの縫製産業を事例に分析した。まず、マダガスカルでは縫製産業に対する外国直接投資が盛んに行われているが、それが地場資本の企業の発展に結びついていることが確認され、アフリカでも外国直接投資を契機とした工業化の可能性があることが分かった。他方で、2009年に生じた政変の結果、米国市場での関税免除措置が停止され、企業の撤退によって雇用に顕著な影響が現れていることがわかった。

研究成果の概要（英文）：

We have investigated possibility of manufacturing development in sub-Saharan Africa through a case study of the garment industry in Madagascar. First, we found that foreign direct investment in Madagascar has catalyzed development of local exporting firms, indicating potential of the FDI-led industrialization. Second, the political turmoil emerged in 2009 has significantly affected the industry through drastic reduction of exports, which led to large loss of employment for uneducated and female workers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2012年度	100,000	30,000	130,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学、経済政策

キーワード：経済発展、製造業、外国直接投資、企業データ、マダガスカル

1. 研究開始当初の背景

サブサハラ・アフリカ（以下、アフリカと呼ぶ）は長い経済の停滞を経て、近年ようやく成長が見られている。しかし、これは主に資源価格の高騰によってもたらされたもの

であり、持続的な成長経路にのったとは見なされていない。アフリカの開発戦略においては、持続的な経済成長に必要な技術水準の向上という観点から、製造業の成長が望まれている。

他の途上国の経験では、外国直接投資はロ

一カク企業に技術や知識を移転する重要なチャンネルであり、その効果はFDI スピルオーバーとよばれる。アフリカでは、直接投資の不在が製造業の停滞の一因と考えられていたが、2000年以降、いくつかの産業では顕著な増加が見られている。今後は、活発化する直接投資がローカル企業（国内資本企業）の成長を引き起こすかどうか、アフリカにおける工業化と持続的な経済成長を実現するための重要な要因となる。

2. 研究の目的

本研究では、アフリカにおいて外国直接投資を契機とした産業発展が実現するための課題を発見することを目的に、旺盛な直接投資が行われたマダガスカル縫製産業におけるFDI スピルオーバーの実態を分析した。マダガスカル縫製産業は、アフリカにおける輸出向け製造業の成功例の一つであり、FDIの歴史も15年以上になることから、スピルオーバーの分析対象として適当である。

しかし、研究開始直前の2009年3月にマダガスカルにおいて政変が発生し、2010年にはアメリカ市場に無関税で輸出できる優遇アクセスが停止された。その結果、輸出は大幅に減少し、多くの企業が撤退した。このことは、輸出産業が政治的安定や先進国の貿易政策に影響されやすいことを意味しており、アフリカにおける産業発展の別の重要な課題を示している。そこで、政変および市場アクセスの変更の影響について分析することを、研究目的に加えた。

3. 研究の方法

本研究では、企業レベルの情報を収集して分析に利用した。外資系企業とローカル企業間のスピルオーバーは、企業レベルで生じているものであり、産業レベルの情報では実態を把握するには不十分である。また、同じ産業の中でも、企業の間では経営や技術の能力、資金アクセス、規模、他企業とのネットワークなどについて多様性がある。こうした多様性が、FDI スピルオーバーの享受や、政変の影響について企業間の差異を生み出しており、産業発展の可能性を検討する上で、企業レベルの情報は不可欠である。なお、マダガスカル縫製産業について、多サンプルの企業データは他に存在しない。

アンタナナリボ大学と共同で企業調査を実施し、本科研費で2年分のデータを収集し、別の研究資金によってさらに2年分のデータを収集した。一般に、外資系企業のデータ収集には困難が伴う。そこで、アンタナナリボ

大学、輸出企業組合、マダガスカル政府と共同で、調査に関する記者会見を行うとともに、毎年、調査結果の概要を発表するワークショップやカンファレンスを開催した。これらは、メディアでも取り上げられ、企業に対して調査を認知させることに成功した。初年度

(2009年)は、ランダムサンプリングから117工場を抽出し、以降はそれらの企業を追跡するとともに、随時、新しいサンプルを加えた。また、研究代表者は、企業間のスピルオーバーの実態を調べるために、別途、インタビューを13社に対して実施した。

4. 研究成果

(1) スピルオーバー

まず、企業調査によって、輸出市場に参入しているローカル企業が少なからず存在することが明らかになった。調査した輸出企業のうち28%の企業では国内資本が過半を所有しており、マダガスカル人が経営者となっている企業は21%であった。ローカル企業の平均規模は、外資系企業の約1/4であるが、国内市場のみに販売する非輸出企業の約7倍であり、輸出市場への参入に伴って、企業規模が拡大していることがわかる。また、総要素生産性(TFP)は、外資系とローカル企業のそれぞれの平均に有意な差異はなく、ローカル企業は少なくとも平均的な技術と能力を有していることが分かった。

事例調査から、ローカル企業の多くは外資系企業とのかかわりが深いことが分かった。ほとんどの企業では、経営幹部に外資系企業で就労経験のある人材がおり、彼らが生産技術やマーケティングに関する知識をもたらしていた。また、経験の浅いローカル企業が輸出市場において受注することは困難であるが、外資系企業の下請けを行うことによって受注を確保し、参入を果たしていた。

FDIによるスピルオーバーの効果は、技術や知識がもたらされることと、下請け需要の発生によって参入障壁が下がることが考えうるが、マダガスカルでその両方が生じていた。ただし、ローカル企業の生産性は輸出企業の平均と差異がないという結果は、効果的に学習していることを示している。

なお、ローカル企業の輸出市場への参入要因について分析を行う予定であった。輸出参入時の期待利潤をシミュレートすることにより、参入行動を構造的に理解することを計画していたが、政変の発生により縫製産業の生産および需要が大きな変化を受け、安定した利潤関数を推定することが困難となった。この点については今後の課題としたい。

(2) 政変の影響

2009年3月に、軍による武力行使を伴った政権の交代が発生し、それ以来現在まで、選挙で選ばれていない大統領が暫定政府を運営している。武力衝突は最小限であったため、縫製輸出は続いているが、2010年からアメリカ政府は、マダガスカルからの輸入品に対する関税免除を停止した。その後、アメリカ向け輸出の大幅な減少、企業の撤退、失業の増加が報告されている。一部のアフリカ諸国では、いまだ政治的な混乱がしばしば発生しており、産業発展への影響は無視できない。

貿易データを利用して、政変および優遇アクセス停止による輸出量の変化を推定した。金融危機など他の影響を除くために、他国からの輸出量との差の差 (difference-in-difference) をとった。優遇アクセス中止の影響については、米国市場についてのみ影響が出ているため、他の輸出国とともに EU 市場向けの輸出額との差の差 (difference-in-difference-in-difference) を利用した。その結果、政変については有意な影響がみられなかったが、優遇アクセスについてはアメリカへの輸出額を 70-75% 減少させたと推定された。

次に、企業レベルでの影響を推定した。アメリカ市場に輸出していた企業と、その他の市場 (主に EU) に輸出していた企業の比較から、優遇アクセスの停止は企業の撤退の確率を 58% 上昇させたことが分かった。また、政変以降に低所得者向けの職が 23,000 人分余りが失われたが、そのうち 6,400 人分余りが、優遇アクセス中止の影響であった。他国市場向けの企業も金融危機などの影響で雇用を減らしているため、雇用に対する優遇アクセス中止の影響は比較的小さかったが、この点は精査の余地がある。

(3) アジアの輸出国との比較

代表者を含む研究グループで収集したバングラデシュとカンボジアの企業データから、3カ国の縫製企業の特徴を分析した。

マダガスカル企業は、バングラデシュと比較して労働者の賃金が高いが、それを高い生産性で補っており、結果として生産コストは同じ程度である。この特徴は、カンボジア企業と類似しており、輸出市場において競争力のあるバングラデシュやカンボジアの企業と同等の競争力を有することを示している。このことは、アメリカ市場への優遇アクセスに頼って縫製産業が成長したという仮説への反論となる。他方で、2010年以降の輸出の減少は、関税付加によって価格競争力が損なわれたわけではないことも意味している。この点について、さらに検討することが必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

Takahiro Fukunishi, and Tatsufumi Yamagata, "Employment and Wages in Export-Oriented Garment Industry: Recent Trends in Low-income Countries under the Trade Liberalization," Background Paper to *Industrial Development Report 2013*, United Nations Industrial Organization, 2013. 査読あり

Takahiro Fukunishi, and Tatsufumi Yamagata, "Slow and Steady Wins the Race: How the Garment Industry Leads Industrialization in Low-income Countries," *IDE Discussion Paper*, No. 421, Institute of Developing Economies, 2013. 査読なし

福西隆弘 「アジア、アフリカの新興輸出国の特徴：バングラデシュ、カンボジア、マダガスカル縫製企業データの比較」『繊維トレンド』No. 96 pp. 16-20 東レ経営研究所 2012. 査読なし

福西隆弘 「成長をくじく政争：マダガスカルの事例」『アジア研ワールド・トレンド』185 pp. 24-27 アジア経済研究所 2011. 査読なし

[学会発表] (計 2 件)

Takahiro Fukunishi, "Impact of AGOA Suspension on Madagascar's Garment Workers: Preliminary Study Based on the Firm Dataset 2008-2010," CSAE Conference 2012: Economic Development in Africa, 2012. 3. 19, University of Oxford

福西隆弘 「政変が雇用に与える影響：マダガスカル輸出向け縫製産業」日本アフリカ学会 2012年05月26日 国立民族学博物館

[図書] (計 4 件)

Takahiro Fukunishi ed. *Producers in the New Trend of Globalization: An Interim Report*, Institute of Developing Economies, 2010, (coauthors: Akio Nishiura, Herinjatovo Aimé Ramiarison, Tomomi Tokutori, Megumi Muto, Eiichi Yoshida) 査読なし

Takahiro Fukunishi ed., *Dynamics of the Garment Industry in Low-Income Countries: Experience of Asia and Africa (Interim Report)*, Institute of Developing Economies, 2012, (coauthors: Yoko Asuyama, Neou Seiha, Mohammad Yunus, Kenta Goto, Momoe Makino, Toshihiro Kudo, Herinjatovo Aimé Ramiarison) 査読なし

Takahiro Fukunishi ed., *Delivering Sustainable Growth in Africa: African Farmers and Firms in a Changing World*, Palgrave Macmillan, 2014 (coauthors: Jodie Keane, Aya Suzuki, Akio Nishiura, Herinjatovo Aimé Ramiarison, Tomomi Tokuori) 査読あり

Takahiro Fukunishi and Tatsufumi Yamagata eds., *Garment for Development: Dynamism of Garment Industry in Low-income Countries*, Institute of Developing Economies (or Palgrave Macmillan), 2014 (coauthors: Yoko Asuyama, Neou Seiha, Mohammad Yunus, Kenta Goto, Momoe Makino, Toshihiro Kudo, Herinjatovo Aimé Ramiarison) 査読あり

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福西 隆弘 (Takahiro Fukunishi)
日本貿易振興機構アジア経済研究所 地域研究センター 研究員
研究者番号：80450526